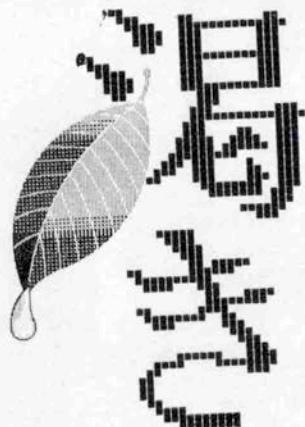
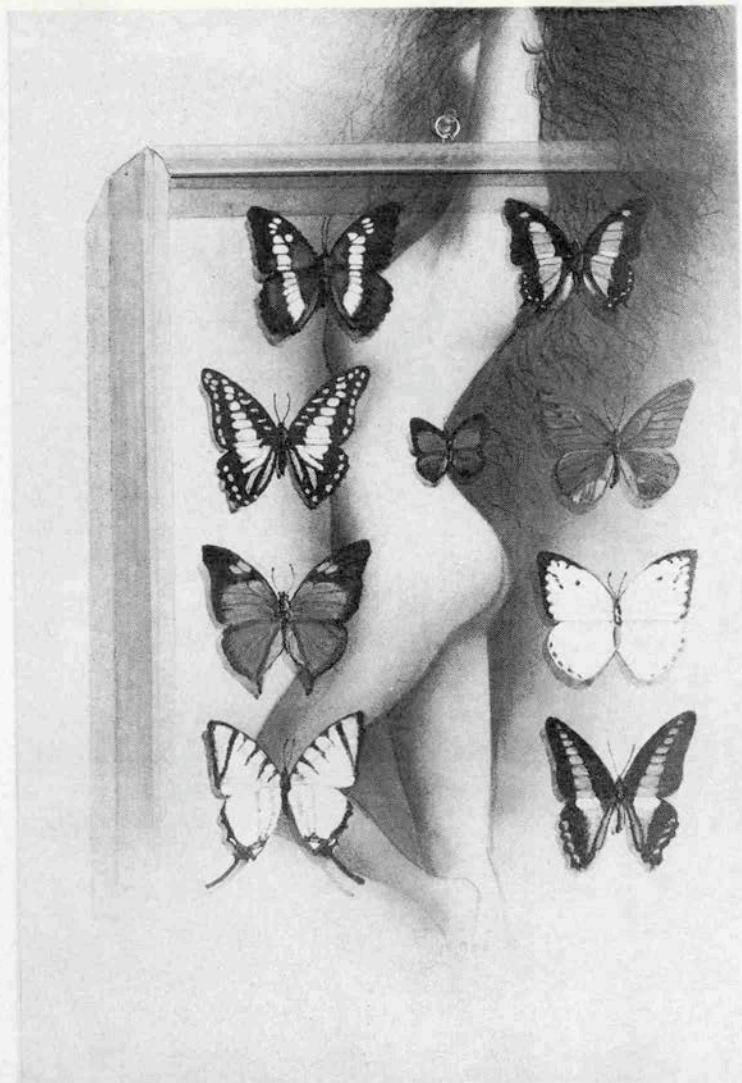


連載小説△最終回▽



刀と
禰 喜美子
ね
え・南 和好

話しかけているうちに、桐子は今井の個展に行くよりも、津坂に逢いたくなってきた。時計が三時五分を指している。三時のティタイムに会社を抜け出してきた津坂と喫茶店で待ち合わせた記憶が蘇ってきた。

「夜に会合がある」

確かに電話でそう言つた。今ならまだ会社で仕事中だろ

う。少しの時間でもいい、遙おう。桐子は地下街の隅に

ある黄色い電話機に近づいた。ダイヤルを廻す指が、いいおもいつきに躍っている。

「もしもし、津坂部長、お願ひします」

「はい。あの、今日は部長は年休をとられて、出社されていません」

切口上な女の声が耳許でした。桐子は聞き違いかと思つた。

「年休って、じゃ、夜に会社の会合はござりますか」

「今夜は社としての会合はないはずですが」

「どうも失礼いたしました」

受話器からいっ手を離したのか、ただ、電話の内容だけがうわんと耳底でうなつっていた。

「津坂が嘘をついた——」

桐子は肩をいからせ大股で歩いていた。桐子の方に真直に向いていた津坂が急にぐるりとあっちを向いてしまつたのだ。地割れの真つただ中に立つてゐるような心もとない氣持である。

「いつたい、どうしたつていうの。自宅に電話して問い合わせてみようか。いや、電話じやダメ。あの人の瞳をじつと視据えて——ミリの嘘も許さない勢いで相対さなければダメ。電話ではゴマかされてしまうわ。家に行こう」

桐子はそう決めると、揺れている心を抑え、ポシェットから彼の名刺を出した。地下街から地上に出た。目の眩みそな明るさである。手を振つて車を停めた。名刺をみながら行先を告げる。津坂の自宅へは一度も行ったことはなかつたが、大体の見当はついていた。

さき程までの口の渴きが、余りの愕きでさつと消え

た。よくある嘘だと思うけれど、桐子にとつてははじめの愕きであった。時々話しかける運転手の声もラジオの音楽もわざらわしかつた。考えるべきことが沢山あるが頭は空っぽだ。刺戟臭のツウンとしたのを嗅いだ時にも似て鼻腔が痛く、避けたいのに避けきれない厭な感触だつた。

古い屋敷街が見えてきた。どつしりと落着いた家並の続いている場所の路肩で車を駐めた。津坂の父親が建てたと聞いていたその家はすぐに見付かつた。津坂の筆跡の表札があがつていた。

その字に接した時、迷いこんだ道で旧友に出会つたような懐しさを覚えた。見馴れた津坂の筆跡なのに、堂々とした門柱に嵌めこまれてゐると他人の字のように取り澄ましている。

化物屋敷と大げさに津坂が洩らしていた通り、荒れていたが瓦も建材も純日本式の家屋も格調があつた。車の中では臆さずに玄関のベルを押して訪ねるつもりだったが、旧い歴史を持った家屋が桐子を委縮させる。

透析病院を退院する時、それまで住んでいたアパートからマンションに移つた。

「ぼくの家に来ないか」

と、既に妻の居ない彼がそう言つてくれるとばかり思つてゐた桐子は、そういう言葉はなくて別のマンションに移転するのが意外だつたし不服だつた。

彼の家の前に佇んでみると、これだけの広さを桐子に管理させるのは無理だと津坂の配慮だつたと納得した。桐子はベルを押すのをためらい、門の前を往つたり來たりした。ブロック塀の低さが庭内を窓うのに便利だ。辺りの家々はこんもりとした生垣をめぐらしてあるので内部がよく見えない。その点、津坂家は解放的であった。庭木も手が加わられずに茂りっぱなしになつた。

「手を入れるとなると、ここもあそこもでおおごとにない」と彼が断片的に洩らしていた家に関する話が、総合

された桐子の頭にどっと押し寄せてきた。

溝に塵が積もっている。ドッジボールのへこんだのや折れたパットなども、庭の隅に転がっていた。桐子は撒水を想像してみた。気の遠くなるほどの重荷である。

マンションの向い側の主婦が、夏の夕方ショーツ姿につけ広帽子をかぶってホースでよく撒水していた。砂場はプールに変わり子供達が水遊びに興じていた。

「夏はいや、どこを見ても水、みずだもの」

桐子は津坂にそう訴えたことを思い出した。

門扉から玄関ポーチまでの敷石の両側に柘植の樹が植わっている。敷石の中央に剪定鉄が投げ出してある。門扉に近い柘植が丸く整っているのに較べて、奥の方のはツノの形に葉が四方に突き出していた。フィルターに見覚えのある煙草の吸殻が敷石の上に二つ、落ちている。津坂が喫煙した証拠である。剪定していたのは津坂なのだ。津坂は在宅しているということだ。

「社の会合だなんて——」

むらむらと騙された憤りが湧いてきた。

角家になつていて、正面のブロックに添つて曲がった。勝手口がある。洗濯物が干してあつた。遠くから見ただけでその量の多いのが解る。汚し盛りの男の子が二人もいるのだ。桐子の胸にふいに脈打つた。女物の洗濯物がある。桐子は瞳を凝らして、洗い物を吟味しはじめた。

洗濯機の水音にも耳をふさぐくらい神経質になつてゐる桐子に、二人の子の面倒をみさせるのを酷だと判断した津坂の心が読みとれる。

おや？ 桐子の胸にふいに脈打つた。

桐子はもう一度確かめるのが震える程怖ろしかった。でも目を外らしてはならない。じっと視た。花柄のクリーミー色のブラウスと水色のネグリジェが風に揺れていた。

「津坂が女と一緒に住んでいる。誰なの？」
桐子は度を失つた。妻の死後、近所の主婦にパートで来てもらつていて、と言つた津坂の言葉が蘇つた。
津坂を信じ、津坂の話したがらないことは知らないでいようとした桐子の基本的な姿勢が、ここでひとつの大な結果となつて現わってきた。妻のいない家庭のきりもりは早急な彼の課題であるはずだったのに、桐子は深く追求しなかつた。

思いがけない櫻を胸に打ちこまれて混乱した。考えがまとまらないまま、立ち止まつては通行人に怪しまれるだろうかといふ、そんな人の目を気にするだけの冷静さがまだ残つていた。ふらふらと歩み続けた。

妻の妹に子供達がなつていて、そんな言葉も思い出した。桐子は眼前の事実を肯定するのが無念なので、その妹がただ単に気軽に遊びに来て泊つてゐるのも知れないと思いつもとした。だが、落下してゆく気持はぬぐわれない。

津坂と話し合おう。

桐子は扉の端まで歩いていた足先の向きを変えて、門の方に戻つてきた。向い側の家の門の横に電柱がある。その蔭に佇んで深呼吸し落着こうとした。

その時、津坂が勝手口から出てきた。たつた今、話し合おうと決めたのに、馳け寄つて声をかけたい気持を抑えるものがある。電柱に磁気でもあるように身体は動かない。これまでの信じられる津坂でない別の彼を見る目が生まれていた。

津坂はチエックの茶色のシャツに薄茶色のセーターを着ていた。同色のズボンは普段着らしく折り目はついていない。スーツにネクタイの津坂を見馴れている桐子にはそんな津坂が別人に見える。桐子の部屋にもセーターやカーディガンを用意してあつたが、彼はいつも来るとすぐに上着をぬぎネクタイをはずしたままの恰好か、パジャマにガウンの姿になつてしまつた。

津坂は桐子には無論気がつかずにすたすと歩いてゆ



く。車庫のあるのを見逃していたが、その方に進んでいった。

車庫はシャッターが開いていて、勢いよく水しぶきが飛んでいる。誰かが洗車をしているらしい。彼が車庫の前に立つて何か声をかけると、水しぶきが止まり、女の姿が現われた。

桐子は否応なく彼女の顔を正面から見ることになつた。頬骨の張つたこれといって特徴のないすぐ忘れてしまいそうな顔立ちの女だった。太りぎみの肩をはずませていた。後姿の津坂の表情は見えない。女の長靴にホースの先がはつて、水がはね返っている。女は濡れた手をエプロンで拭いた。

——エプロンをタオル代わりにして、汚れた手をふくのは厭だな。と津坂はよく言つた。糊とアイロンの利いたエプロン

を身につけるようにしていた。汚れたエプロンをした女と、津坂は平氣で喋つているのが桐子の傍にいた津坂とは思えない。

津坂は手に持っていたのか、布の袋を女に渡している。女はそれを小脇に挟み、ホースをたぐりよせて巻き、長靴をサンダルに履き替えた。

シャッターを下ろした津坂は、女と並んで歩きはじめた。透析病院へも何度か一緒に乗った白い車が隠れた。当然のようだ桐子は助手席に坐つていた。まるで自分だけの指定席のような気安さでそこに納まつていたけれど、別の日、その席にはこの眼前の女が坐つたかもしれないのだ。

二人を尾行するのが苦しいはずなのに吸いよせられるよう、二人の後ろを歩いていた。左足の踵と右足の踵がもつれていのだろう、重心がうまくとれずによたよ

たした足取りで追っていた。

津坂の髪には柘植の葉っぱがくつついていた。乾くとウェーブのくるせ毛を、桐子の前では整髪剤で押さえて真直にした髪型にしていた。今は自然の波立ちのまま梳かないでいる。女もパーをかけたままの乱れた髪をしている。その二人の様が何年も暮している夫婦そのもののように桐子の目に映じた。よく融け合い、大地に根を張っている安定感を与えた。

女のスラックスは膝が丸くなり、カーディガンも薄汚れたベージュ色だし、サンダルには土がこびりついていた。よく働く気取りのない姿である。津坂のツツカケも斜めに歪んでいた。ふと、津坂の水平に減っていた墨が泛んできても、もの哀しくなった。

スーパーにはいつてゆく二人を見届けると、もうそれ以上追っかける元気を失った。二人の間に分け入りたいと何度も思った。透析者になってから行動する前にじつと考えこんだり観察したりする癖がでている。動搖しているのにどこかで冷静な心が、二人の間に分け入るのを阻んだ。

透析室にいて透析をしている最中に、もし、火事とか地震がおこればどうなるだろう、とベッドの隣の女子高生と話したことがあった。

「管を下手にはすすと空気がはいって死ぬわね。看護婦さんにはつていかれたら、義腎国全滅！」

「義腎国つて、お姉さんがつけた名？」

「そうよ。義足とか義眼っていうじゃないの。ことがおこれば義腎と心中だ」

「死刑みたいね。いつも死を覚悟して死んだもの」

「だから、死に対して妙な落着きができるのね」

桐子は屋敷街を往つたり来たりした。見知らぬ街筋を分かれ道に来ては曲がり、突き当たれば戻り、力なくさまたた。

津坂の息子達にとつて透析者の桐子よりも、よく働く女の方がよいのに決まっている。近所のパートの主婦、妻の妹か、それとも全然別の女か。桐子よりは年齢のいったあの女が津坂の妻になる。その披露の宴を明日ぐらいにするその準備を今夜するのかも知れない。

彼の妻に嫉妬していた頃が懐しい。嫉妬は対等な相手に燃えるものだ。対決しても何らかで優劣の競える自信のある間、妬心は募るだろう。自分に到底勝目のない場合は諦めが先行する。彼と歩いていた女に対し、桐子は少しも嫉妬心が湧いてこなかった。

真相を一刻も早く津坂に問い合わせたい、いやこのまま何も聞かない方がよいのだ、と迷いながら歩いた。

津坂を見る目が変わったことだけは確かである。予定表がいっきに漂白されて、明日、透析に行く気力さえ失われた。二人で築いたものは何もなかつた。桐子の左側にいたあの津坂が女の左側にもいた。

桐子の喉がひきつった。コーヒーを、ビールを、飲むのなら津坂と共に、との想いが桐子の足をここまで運ばせたのだ。津坂の一滴の唾液が桐子をなごませてくれるはずであつたのに、惨めな結果になつた。

ビールが飲みたい。

小学生の頃の記憶が頭を掠める。遠足で田舎の道を歩いている。水筒が空っぽになつていた。先生、喉、からかうです。そうか、でもここに水はない。もう少し歩け。そこまでいけば井戸水はあるぞ。井戸水は美味しいぞ。畠の間の道を歩く。まだまだですか、先生。そこだ、そこだ、あつたぞ。わアッ!! 水。列を乱して全員駆けてゆく。わたしが先よ。ぼくが一番だ。喧嘩するな。今、汲んでやる。

冷たい水をぐくりと飲んだ時のあの美味しさ。桐子はレストランの扉の前に立つた。自動扉がすっと開いた。

「中ナマ。とりあえず」

桐子は威勢よく註文した。ああ、何日振りだろう。心の望むままに、食物を註文するのは。

駅前なのか、電車の発着の音が響く。ぶつ倒れるまで飲もう。どこの誰とも知らぬ津坂の彼女に乾盃だ。

何日か後、マンションに来た津坂は、無人だと知るだろう。おでんの鍋の蓋を取り、さえずりの腐臭を嗅ぐだ。ジョッキの泡が桐子に笑いかける。赤い管の壊れる音が聴こえる。津坂も泡になつて消えてゆく。（了）

小磯君と 竹中君と

金井 元彦（兵庫県立近代美術館長）



東京美術学校卒業制作の竹中郁氏モデルのラグビー姿の絵に見入る（故）小磯良平夫妻

小磯良平君とは旧制神戸一中の同級生であったが、グループは別だった。彼は温和しいタイプで、絵を描いたり文学に理解を示すたちであり、私は剣道や野球を好み、およそ文弱なことは嫌いであった。彼から見れば、私は時代遅れのコチコチ野郎で、箸にも棒にもかからないしろものだったに違いない。私は殆ど彼を無視し居たが、三年、四年と進級するに従って、彼の画は全く我々と類異にし、とても真似の出るものではないことが判ってきた。

詩人の竹中郁は同年級で、小磯君とは極めて親密であった。もちろん我々とは別グループで、お互いに相手を無視して居た。

竹中郁君はすこぶる活潑で我々の仲間に入つて来ることもあった。家が裕福で、大学を出ると直ぐにフランスに渡ったが、後から行つた小磯君のフランス留学の先導役を勤めたようなものであつた。

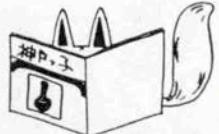
一年程は小磯君は一足先に日本へ帰つて来たが、竹中君とは、生涯心を許してつき合つていたようだ。凡そ小磯君と竹中君とでは、丸つきり正反対の性格であったが、しかしどういうわけか、二人は兄弟以上に親密であり、特に竹中君は小磯君の画を良く評価していたようだ。

小磯君は終生殆ど画風を変えることなく、デッサンにおいても彩色においても、もっぱら真実を追求して止まなかつた。竹中君は、つねづね小磯君の画は将来その真価を認められるに違ひないと強調していたが、その通りになつた。



神戸っ子と
出会う時

月刊「神戸
っ子」は思
いがけない
ところで：



木上川川嘉金柏貝貝小鬼小牛上乾櫟石石石荒朝青★
口林瀬上納井并原原野塙田尾島 木野田阪川奈木行に
英喜 穀元健六俊一喜俱吉達豊茂信 春克 重い
代 八 衛一子勉六彦一一民夫郎義朗司彦男一一生郎 隆雄い

中中中永外土筒津陳田田淹淹高新司塙笹佐雀雀小
西内内田島井井高辺崎川川橋谷馬路山藤部部泉

良健芳康和舜聖俊清勝 英遼義幸 虎昌徳
一 勝力功郎吉子隆一臣子作一二孟夫郎孝俊廉郎吾一方

神神淀行山望森百元村官宮松松福坂烟西難成灘長長
戸青川吉田月本崎永上地崎井富野崎村波瀬本島澤
百年
会長哉恭美泰辰定正襄辰高一芳通廣 香唯
店議
会所治女一佐好雄正郎二雄男郎美夫敏功還梅人隆昭

★平成三十一年の三月に、月刊神戸「つばさ」が創刊三十周年を迎えた。それは神戸を愛する人々の雑誌です。と掲げた言葉。どれほど沢山の「神戸」を愛する者たちがいるのです。この回の特集は、その「つばさ」の運営者たちによるものであります。川長治先生にビバ／＼小泉美喜子さん、吉川利年さんといった豪華な連続講演が、毎回読む楽しみです。でもそればかりでなく、勝ち目な日常の中でも、一つの節目に当つて、自他共に見直すことは、けだし必要だらう。地域社会の発展のため、地元の仕事など、う取り組むかを考えたい。人のこと、自分のことを香りります。自分でも、ばかり悪く思ふ人がいる。のうちの一人だが、人は感情で動くもの。ところどりのある人は気氛をつけて下さる。(新森) ★第2回 ルーム・ア・ブルの実質的な役割を担当する。文学賞でもそうだが、選考の座談会を聴いていると、時折文章以上の、テクニカルな話を教えることがある。これが得体。人権問題など、30年の蓄積を新たな躍進に繋ぐ。ささやかな積み重ねが神戸を愛する心を培い、物語り合うようになれる道となるべとに。『神戸っ子』に乾杯!

にしむら商店 各店
ハイジ芦屋店
クラフ小方
珈琲俱楽部
東京宝塚劇場宝塚センター
ルミナス神戸
兜子館

キティ	宝文館
御影宝盛館	海文堂
ブックスホーリン	丸善
甲南ブックス	東洋書林
御影ブックス	りいぶる元町
甲南大学生協	ホンデジ
★神戸市灘区	漢文書店三宮
神食舎	ジョンク堂書店
南天莊書店	流星書房
ブックフーラム	コバーブックス
ニコリ南天莊	ラン書房
ブックスのじぎく	カスガノ書店
六甲	ブックスファ
ブックス六甲	白樺書店
サンブックス	A Z
朝日屋ボーアイ	朝日屋ボーアイ

市店	★神戸市須磨区 神戸書林	宝塚書店 キリンド書店
	すま氏書房	★蘆屋市 源氏書房須磨寺店
	博文堂書店	芦屋宝盛館
	★神戸市垂水区 文部館	大利昭文堂
	漢口堂・明舞店	★明石市 ブックスマヴィモ
	日東館・垂水店	木村書店
	★神戸市西鈴蘭台店	森田書店
	★神戸市西区 三耕堂	★加古川市 ブックスマルフ
	ジャဉンク堂学園都 誠心堂書店	詳文館 姫路市

編集後記

キティ	宝文館
御影宝盛館	海文堂
ブックスホーリン	丸善
甲南ブックス	東洋書林
御影ブックス	りいぶる元町
甲南大学生協	ホンデジ一
★神戸市灘区	漢文書店三宮
神食舎	ジョンク堂書店
南天莊書店	流星書房
ブックフーラム	コバーブックス
ニコリ南天莊	ラン書房
ブックスのじぎく	カスガノ書店
六甲	ブックスファ
ブックス六甲	白樺書店
サンブックス	A Z
朝日屋ボーアイ	朝日屋ボーアイ

市店	★神戸市須磨区 神戸書林	宝塚書店 キリンド書店
	すま氏書房	★蘆屋市 源氏書房須磨寺店
	博文堂書店	芦屋宝盛館
	★神戸市垂水区 文部館	大利昭文堂
	漢口堂・明舞店	★明石市 ブックスマヴィモ
	日東館・垂水店	木村書店
	★神戸市西鈴蘭台店	森田書店
	★神戸市西区 三耕堂	★加古川市 ブックスマルフ
	ジャဉンク堂学園都 誠心堂書店	詳文館 姫路市

●神戸つ子は左記の書店で

三宮ブックス
★西宮市



菜の花とれんげ彩る“会席しゃぶ”

春の花が美しい季節。私の好きなアートフラワーは、洋花もはなやかですが、日本の四季を彩る花々を創るネオ・ジャパンが喜ばれています。アンナ・アンさんのしゃぶしゃぶも、日本の会席を添えてミセス好みでおしゃれです。アートフラワーの菜の花とれんげを添えてみました。

長浜律子先生（アート・フラワー・リツフローラ主宰）

- イタリアンしゃぶしゃぶコース ¥3,800. 新鮮な魚介類と合鴨の地中海風鍋
- スペシャルしゃぶしゃぶコース ¥3,500. 特選牛ロースのやわらかさを自家製ゴマダレでお楽しみ下さい
- 食べ放題パーティーコース ¥5,000. 4名様以上で、牛ロースの食べ放題新しいパーティーの提案です。

おかげ様で
1周年を迎えました

UNA UNA
しらね・アンナ・アン

アシナ・アン
しゃぶしゃぶ専門店
神戸市中央区三宮町1-10
(078)-391-3964

営業時間
ランチタイム AM11時～PM3時
ディナータイム PM5時～PM9時

味どころ 椎 瑞 古

選りぬきの素材を磨き抜かれた技で
それが私たちのおもてなし



〒657 神戸市灘区新在家町1丁目1番18号

電話 (078) 841-9555

営業時間／午前11:30～午後10:00

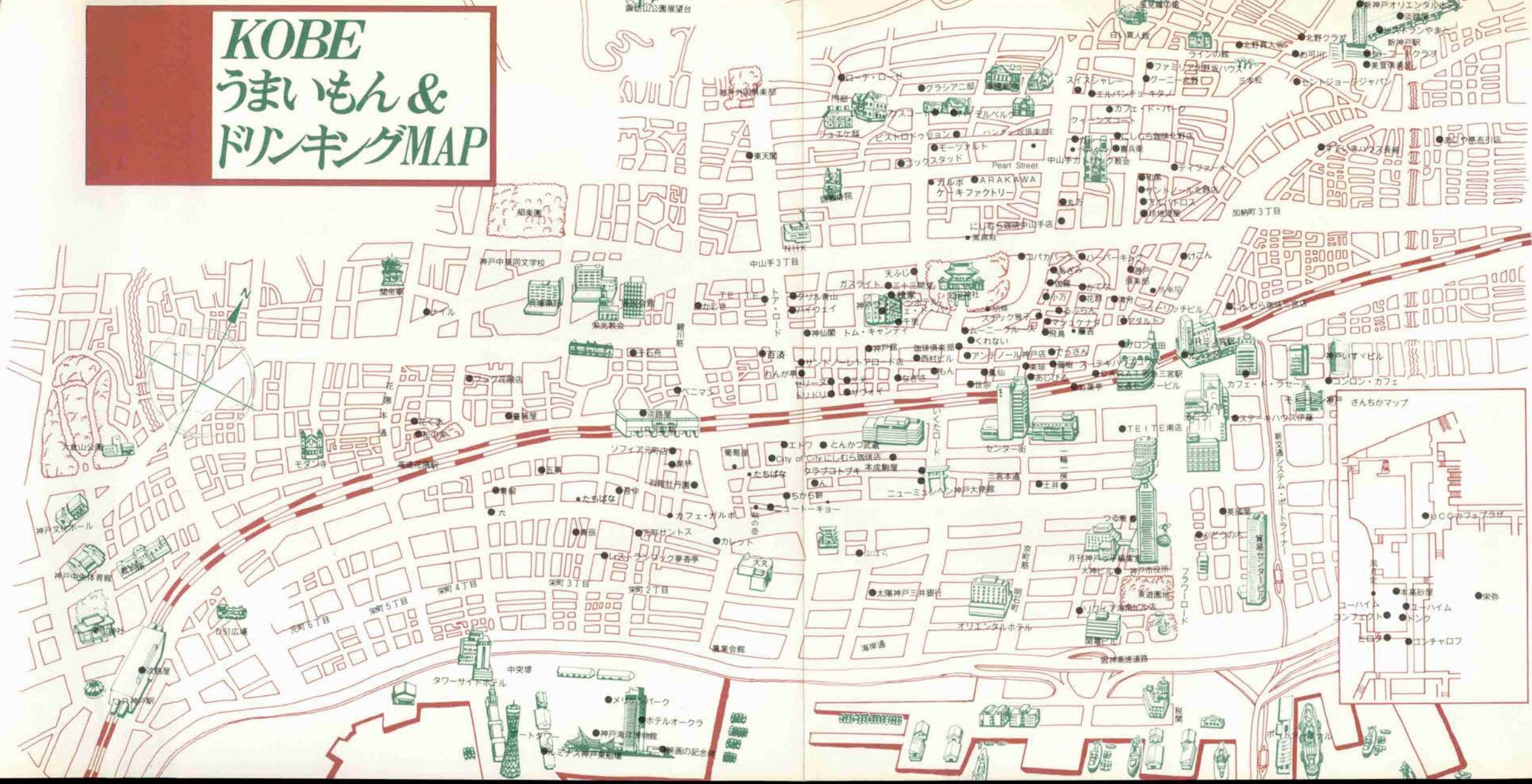
年中無休 駐車場完備

- 午後2時から午後5時までは喫茶だけでもご利用いただけます。
- 仕出し・ご宴会のご予約も承ります。



日ごとに暖かくなり、うららかな心
で迎えるこの季節。春の野立弁当が
仕上りました。旬のものをふんだん
に使い、日替りでお届けいたします。

KOBE うまいもん& ドリンクMAP



■村上和子の

神戸の味と銘酒と



日本料理

海舟

“海舟”の心意気が
料理にも酒にも

激動の幕末維新の中で活躍した

神戸市中央区中山手通1—7—8 格子屋ビル1F

TEL (078) 331—2924

●営業時間 17時～翌2時

●定休日 日・祝日



『吟醸酒図鑑』著者 村上和子
(ジャーナリスト)

金露

金露酒造
神戸市東灘区魚崎南町5—5
TEL (078) 431—1633/47

勝自身は酒を飲まなかつたそう
だが、鋭気を養う酒なら、童馬たち
塾生らにも、勝手放題飲ませた。
まさに“天下を飲む酒”だつたの
だろう。“海舟”での旨酒は、飲
むほどにうまさの冴える、灘・魚
崎郷の「金露」。ていねいに仕込
んだ酒は、勝をほうふつとさせる
知性に満ちた、ゆかしい酒だ。

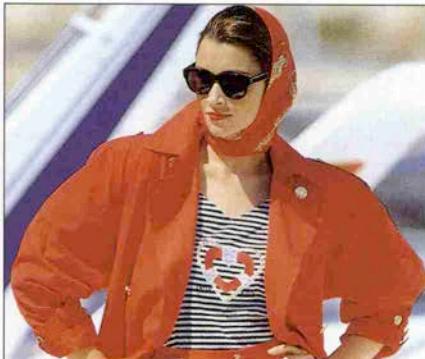
SHOPPING



La POMME SINCE 1873

元町一番街山側
☎331-6195

● アクセサリー・ブティック
べっ甲とシルバー、ゴールドの粋な組み合
せのリングとベンドメント。さりげないおしゃ
れが人気です。



サンジェル

センター街2丁目
☎331-4358

● ブティック
海からの風が神戸の街を渡る春。真紅なスヌ
リングコートとショートパンツ。マリンルーフ
クとおしゃれなカジュアルはMc David



BOUTIQUE
AZUR
アジュール

加納町3-2-8
ニュー加納ビル1F
☎392-8280

● ブティック
パリの空から生まれたアジュール。風がきら
めき始める新しい季節、風に乗つて貴方も、
アジュールで袋つてみませんか。



末積製額

トアロード・丸前
☎331-1309

● 画材・額縁
春の足音が、もうすぐ近くで聞こえる頃、思
いは遠く異国之地。絵の持つ不思議な力があ
なたをまだ見ぬ国へと旅立たせてくれます。

TAKE & SHOPPING



ATELIER
NASU

北野 4-9-18
カサフェニックス北野
☎ 222-3315

● ブティック

北野町の春を着てみたいバステルカラーの
ストーブやカードデイガン、そしてセータードーなど
クロエのコレクションにパリのバックを！



Cascade

学園都市駅前店
☎ 792-2568

● 手づくりの心を伝える
神戸で育んだカスカードの伝統ある手づくり
のパン。いつでも焼きたてのおいしさ、カス
カードならではのフレッシュな味をどうぞ。



うどん・そば
和菓子

東ちから餅

トアロード
☎ 331-3250, 3251

● うどん・そば・和菓子

ちから餅のうどん・そば・和菓子、お餅など
の数々は、いつも変わりなく、肩のこらない
味が嬉しいのです。



サロン ド テ
Cariette

元町通1丁目
☎ 321-1739

● ティールーム
カップを手にする時は、いつも最高でいたい
マイペースタイムをカレットで……。姉妹店
「カフェ・ド・ラ・ゼール」もご愛顧ください。

バラエティ豊かに拡がるくつろぎのステージ。 神戸エリアの大和実業グループ。



心あたたまるバニーのサービス、
くつろぎのフロア。

ザ・ロイヤル三宮店

レインボーブラザ6F



ワインをもっと自由に気軽に。
ちょっぴり気の利いた飲み方。

ザ・ワインバー三宮店

レインボーブラザ6F



都会の中のふるさと気分、
若者のお祭り広場。

櫻茶屋三宮店

西村ビルB1・1F



最高の料理を最高の空間で。
本格派ダイニングバー。

ゲストハウスブレゴ

リランズゲイトB1F



ウイスキーがウイスキーらしく
うまい本格派トラッドバー。

エスプリ神戸店

エスプリステラ三宮店

神戸ワシントンホテル1F

ステラ三宮8F



最新のレーヴィディスクカラオケで
ぞんぶんにお歌いください。

めだかの学校三宮店

ニューリッチビル9F

ザ・ロイヤル三宮店

神戸市中央区北長狭通1-9-3レインボーブラザ6F
☎ 078(332)1251

ザ・ワインバー三宮店

神戸市中央区北長狭通1-9-3レインボーブラザ5F
☎ 078(332)1057

櫻茶屋三宮店

神戸市中央区北長狭通2-12-10 西村ビルB1・1F
☎ 078(331)3621・日 078(332)3732

ゲストハウスブレゴ

神戸市中央区山本通2-4-24リランズゲイトB1
☎ 078(222)4885

エスプリ神戸店

神戸市中央区下山手通2-11-5神戸ワシントンホテル1F
☎ 078(392)7002

エスプリステラ三宮店

神戸市中央区北長狭通1-2-18 ステラ三宮8F
☎ 078(322)3920

めだかの学校三宮店

神戸市中央区北長狭通1-2-13ニューリッチビル9F
☎ 078(391)5508



コミュニケーション・飲みじゅうじゅん

Online Bottle system で結ぶ
大和実業グループ

春3月。歓送迎会などのパーティにもご利用ください。



- トリドリのオリジナルメニューは30種類です。“通”的方にも、焼鳥はもうひとつ、とおっしゃる方にも、ご満足をいただいております。
- (コースメニュー) A・12品・B・11品 各2,500円 他にも単品各種、ワイン、日本酒などを豊富に取り揃えています。
- 10名様ほどの小パーティーには奥の小部屋が便利です。小人数でのパーティーにご利用ください。

YAKITORI
や冬鳥
トリドリ
Toridori



神戸市中央区北長狭通2丁目5-1

タイシンサンセットビル2F

☎(078)391-3028

5:00PM~10:00PM(オーダーストップ)

月曜日定休

四季の銘菓



初代寅吉が江戸の大福餅から
思いついた白、赤、青の

三色の餅は

彼が義太夫淨るりて文大夫
を名のつていたので

分大と名づけられた。

野趣と雅趣とをほどほどに混

混えた素直な味に

多くの人が舌の鼓をつつ。

分 大 餅

札 謙 竹 中 郁

朝には 白

昼には 青

晩には 赤

こうして「分大餅」をたべたいが
夏のあいだ製造がおやすみだ

その代りに「うすぐも」がある

三百六十五日やすみなく

まあ、「分大餅」と「うすぐも」とを

たべているのがわたくしだ



分大餅 1ヶ ¥110
10ヶ箱入 ¥1,200

午前中で先り切れる時もありますので予約販売い申し上げます。
もし困りましたら焼いてお召しあがり下さい。あつあつも又とおしえます。

明石市本町一丁目12番17号
藤江屋 分 大
電話明石070-3635番



桃の春。禿ほほえむ雛の宴

三月はひな祭り。日本の四季は、心ゆたかな歳時記が毎月めぐつて参ります。禿は、そんな情趣ある日本の暦をたどって皆様と四季折々を楽しみ遊んでゆきたく思います。三月のお客様は、清水印刷工業所の清水宏祐様です。

米岡三和子

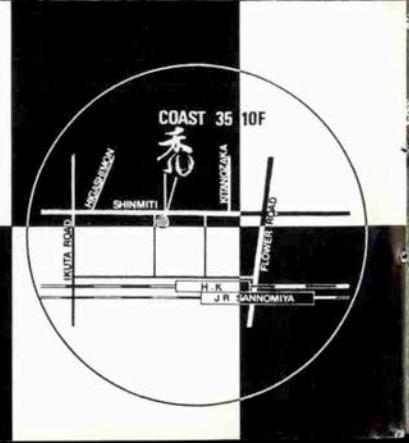


禿
KAMURO

〒650 神戸市中央区北長狭通1丁目5-8
コースト35ビル10F ☎078-322-3006

しゃれたさの
大黒屋

神戸市兵庫区荒田町1丁目20-1
湊川商店街中之筋 ☎511-3503
パークタウン ☎511-5000





ここに来ると、いつも新鮮な気持ちになる。
ここに来ると、いつも素敵な時間が流れている。
古き良き時代の面影と、現在の表情が交差し、
そっとたたずんでいる……

神戸、北野、ハンター坂。

この坂をのぼっていくと、

古い木造洋館の隣りにコンクリート打ち放しのビルが
こつ然とあらわれる。

トリイユキやダルマーニ等、一流ブランドがテナントす
「リランズゲート」だ。

建築家安藤忠雄氏が設計したファッショビルで、
ビルの中に露地がある。

散歩を終えて夕闇せまる頃、

その路地から見えてるレストラン

「ハンター坂俱楽部」がとても素敵だった。

この店のオーナーが京都生まれで、

「路地が京都を思い出させる」

といって、テナントしたという。

その説を聞いて私は、

また何かを見つけたような気がした。

ビジネスに!
ショッピングに!
ご利用ください



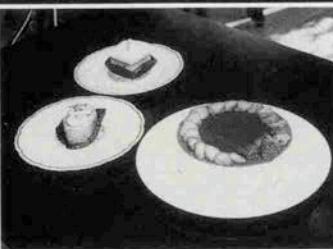
磯上モーターパール
(神戸国際会館前) TEL (078) 251-2662 (8:00A.M.~11:00P.M.)



- 収容台数 350台
- 月極駐車可
- 年中無休

KITANO MAP

気軽にパリの街角へ —バティスリー ジャン・ムーラン—



暖かい春の日差しが降り注ぐお店「バティスリージャン・ムーラン異人館俱楽

部パートⅡ店』山本通店でおなじみのお菓子に加えて気楽にフランス料理が楽しめるカフェ・レストランとして、今年1月オープンしました。クリーム状のプリンのようなブリュレ(¥350)は人気上昇中のお菓子。春にはチエリーやヨーグルトを使った新メニューも登場予定です。レストランタイム(11:30~14:30・17:00~22:00)には、流行は追わず、あくまで正統派のフランス料理が味わえます。ランチ(¥2500~)・アラカルト(¥1200~)など、値段も手頃でフランス料理の初心者にはぴったり。子供連れからカップルまで、みんなに愛されそうな予感のするニューフェイスです。



■神戸市中央区北野町2-8-9
異人館俱楽部パートⅡ 1F
(営)9:30~22:00第1・3火曜日休
(祝日営業) ☎078-231-2815

- ★北野クラブ
- ★お可川
- ★セントジョージジャパン

フランス料理 北野クラブ

中央区北野町1丁目5-7
☎222-5123
11AM~2:30PM
(ランチ/クインズランチは2:30PMまで)
5PM~10:30PM(ディナー)



中央区北野町4丁目8-3
ジャスマナアベニュー2F ☎242-5382

神戸で最初に公開された異人館
うろこの家

中央区北野町2丁目
☎242-6530

異人館のユーハイム
ラインの館

中央区北野町2丁目10-24
☎222-6266
10AM~6PM 第3木曜定休

神戸割烹 お可川

中央区北野町1丁目5-10
☎222-3511
11AM~9PM

スカンディナビア料理と
世界の民族音楽の店
ゴックスタッフ

中央区山本通 回教寺院前
☎242-0131
5PM~0:00AM 水曜定休

フランス料理
グラシアニ

中央区北野町4-8-1
☎242-0597 火曜休 予約制

フランス料理

グーニー北野

中央区北野町2丁目7-18
リングギャラリーB1F
☎242-2562

手づくりのシフォンケーキと サンドイッチ フアミリア

北野坂ハウス
中央区北野町2(北野坂)
☎222-3535
11AM~6PM 水曜休

ワインレストラン・ワインハウス
ローテ・ローデ

中央区北野町4丁目9-14
☎222-3200

フランス料理
ビストロドウリヨン

中央区山本通2丁目13-6
☎221-2727
正午~10PM 月曜休

英國風レストラン
St. George Japan

中央区北野町1丁目2-17
☎242-1234
11AM~3PM(ランチタイム)
5PM~11PM(会員制)

会員制レストラン インターナショナルジーン CASABLANCA CLUB カサブランカクラブ 中央区北野町3-1-6

☎241-0200・222-0182(バリロン)
入会金10,000円 お食事 2,000円~
17:00~24:00 (フルコース)

料亭・ラウンジ
北野異人坂

中央区北野町2丁目9-22
☎222-2001
11AM~6PM (ティー&ランチタイム)
6PM~11PM (料理&ラウンジタイム)

仲間だけのパーティに
2人だけのデートに…
レストランソサイアティー
ハンター坂俱楽部E

中央区山本通2-4-24 リラinzゲート2F
TEL (078)242-7294

フランス料理
ジャン・ムーラン

中央区北野町2-16-8
☎242-4188
11:30AM~2PM
5PM~10PM 水曜休

KITANO

坂のある町・散歩道

